うきしま

第４１号
平成21年7月17日
ＰＴＡ広報部

会長挨拶

ＰＴＡ会長　冨林厚子

初めまして、本年度ＰＴＡ会長をさせていただいております冨林です。

　私のような者が、このような文章を載せていただけるとはあまりにも無謀ではないかと思っております。

　三人の男の子の母親であり、それぞれ小・中・高の在学中のいろいろ役員をさせていただいた中で、今回一番下の息子の時に大役をさせていただくことになりました。

　私の子どもは世間的には決して良い子だとおもわれていないのかも分かりませんが、人には迷惑をかけないようにと言い続けてきました。

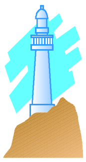
　昼間働いて夜学校に行くということはとても大変だろうと思いますが、一度決めたことはやり続けるようこれまで厳しく言ってきました。普通の全日制に行っておいた方が良かったと息子は何度も思ったかもしれません。父親も子どものしつけには大変厳しく、小さいときから、人には迷惑をかけないこと、人に対する礼儀、思いやりを持つことをずっと言い続けて育ててきました。学業は苦手ということだけで、人間を見てはいけないと思っております。

　社会に出たのが早いので、会社の先輩等から世の中の事をいろいろ聞いているはずです。途中で学業を挫折しそうになったときもあきらめずに頑張り通せたのは、やはり学校は出ておかなければならないという思いと、社会の仕組みや大変さが少しは分かったからではないでしょうか。

　これと言って何も特別にしてやれない私ですが、朝お弁当を作って、遅刻せずに四年間仕事に行かせ、夕方疲れて帰ってきてもそのまま学校に追い立てるように行かせました。本人も大変だったでしょうが、見守る私たちも共に頑張ってきました。こんな世の中です。明日何が起こるか分かりません。皆さんと協力し合って大切な子ども達が無事成長して、卒業していけるよう見守ってやりたいと思います。よろしくお願いいたします。

校長挨拶

校長　福井秀之



　この四月に、田口生夫前校長の後任として着任したのがつい先日のように思われますが、季節は早くも暑さを迎える頃となりました。

　会員の皆様には、お変わりなく御健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より浮島分校の教育活動に対しまして、御支援と御協力をいただいておりますことに心より御礼を申し上げます。

　さて、私ごとではありますが、私にとって浮島分校は昭和五十年代後半に非常勤講師として理科の教鞭をとりまして以来の勤務となります。校長として同じ学校に勤務することとなりますが、この度の勤務を若き日に良き体験をさせていただいた御縁に報いる機会と考え、浮島分校の充実と発展に努力する所存であります。田口前校長同様、宜しくお願い申し上げます。

　ところで、昨年の事件につきましては、容疑者が逮捕をされるという事態となりました。生徒達には、登下校は充分に注意することや夜間の外出は控えることなど、今後とも安全確保について指導していきたいと考えていますので、御家庭におかれましても御指導をお願いいたします。一つ良い報告がございます。４年生の野瀬光さんが円盤投げで全国大会に出場することとなりました。彼女の活躍に期待しますとともに、生徒達全員が学業に部活動に懸命に取り組み、落ち着いた学校生活が送れますよう励ましていきたいと思います。会員の皆様には従前にも増して御支援御協力をお願い申し上げますとともに、浮島分校ＰＴＡ活動のますますの発展を御祈念申し上げ、着任の挨拶とします。

入学式（代表宣誓）

★転入の先生紹介

養護教諭　川戸淳子

この四月に舞鶴養護学校行永分校から転任してきました。生徒たちの健康な心と体と生活づくりをサポートし、ほっとできる保健室を作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

英語科　余田翔太

この四月に浮島分校へ参りました。大学を卒業したばかりで、教育現場で初めて勤務する私にとっては、浮島分校での毎日が驚きの連続でした。しかし、生徒との交流を通じて、生徒の持っている良さや頑張りを多く知ることもできました。まだ経験も浅いので失敗はあるかと思いますが、それを言い訳にはしたくありません。生徒一人ひとりとしっかり向き合い、今年度末に私の教員としてのスタートが「浮島分校でよかった」と思えるよう頑張ります。

事務職員　藤本寿子

精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

（このほか、書道の非常勤講師として、平尾俊博先生、美術の非常勤講師として、余江勝彦先生にお世話になっています。）

★各学年の様子

一年担任　山本彰治

四月当初、十六名の新入生が入学し、復学者二名をあわせ総勢十八名で第一学年、山本丸の船出が始まり早三ヶ月が経ちました。はじめは緊張していた一人一人が、最近になりようやく学校生活に馴染んできたように思います。同じ中学校出身同士で仲が良かったり、また違う中学校であったが、クラスで仲が良くなり一緒に遊んだりしている様子を見ていると微笑ましくなります。

残念ながら担任は一年生の教科が無く、直接授業を見ることは出来ませんが、他の先生方に様子を聞くと、中にはちょこちょこと落ち着きが無く授業に集中していない生徒もいるようですが、概ね静かに授業を受けているようです。

頑張っている生徒も多いのですが、残念ながら授業に出てこない生徒や中抜け（授業を途中で抜け出してサボる）をする生徒もいるので、この先心配なところではあります。高校は中学と違い、欠席がある一定基準より多くなると単位修得が認められず、ある単位数をオーバーすると留年することになるので、各家庭におかれましてもまずは授業に出席をすることを強く指導してほしいと思います。また喫煙で指導を受けた生徒も数人います。未成年者は法律で禁止をしているのはもちろんですが、浮島分校の敷地内は全面禁煙となっており、見つかれば指導の対象になります。なぜ特に未成年者の喫煙がいけないのか、各家庭でも注意をお願いします。良い点もありますので紹介しますと、特に教室はゴミがほとんど無く、これは生徒一人一人の美化意識が高く自分の教室を大事に扱ってくれているからだと思います。これからも学習の場である教室が、いつまでも美しく保たれることを願っています。

これから長い夏休みになります。生活のリズムを壊すことなく規則正しく過ごし、また皆さんの元気な顔を二学期に見られることを楽しみにして終わりにしたいと思います。

文化部活動（華道）

二年担任　浪江大輔

一学期も終盤を向え、蒸し暑い中で一生懸命に授業に出ています。一年生の時よりもそれぞれが成長し、コミニュケーションのとり

かたや気の使い方が「大人」になったように感じています。少なくとも対人関係や日常の所作について、私が注意しなければならない機会は確実に減りました。

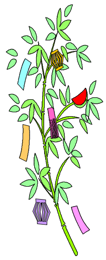
　本年度は体育館の耐震補強工事が入っており、体育祭どころか授業の体育もままならない中、生徒達は卓球で汗を流しています。最初は嫌がっていた生徒たちも、次第に卓球の楽しさに目覚めたのか、とても上達しました。ラリーが一度も続かなかった子が今ではリズミカルに二十回続きますあれこれ手を出すのでなく一つのことに集中して努力することの大切さを学びました。

　一方で学習に集中できなかったり欠席が増えてきている生徒も見受けられます。授業中の私語や飲食等、自ら学習を放棄している生徒もいます。

　自分たちがここに何をしに来ているのか、もう一度思い出して何が自分に一番必要かを考えて見てください。無目的に登校するだけでは時間の浪費となります。このことはホームルームの時間に生徒にも話をしました。

　心と体の両方がバランスよく成長し、名実とも「大人」として成長してくれることを楽しみにしています

三年担任　余田翔太



　四年間の高校生活も半分が過ぎました。三年生の雰囲気は明るく元気が良いのですが、その元気良さが授業中にも表れ、集中できていない場合があります。私語を注意することで授業が中断し、他の生徒に迷惑をかけている状況にまだ数名が気付いていません。また、現段階で欠席が目立つ生徒もいます。去年までの繰り返しではいけません。まだ三年生ですが、もう三年生です。今何をやらなければならないのか、各々が判断し行動しなければなりません。入学時の決意を忘れず、もう一度初心に返ってほしいものです。

　しかし、熱心に授業に取り組み、学校での学習の習慣が身に付き始めている生徒もいます。その生徒達が中心となり、クラス全体が時間を無駄にせず「勉強するんだ」という姿勢を二学期以降見られることを期待しています。

　生徒一人ひとりの希望する進路の実現に向け、この一年が有意義なものとなるよう精一杯支えていきますので、ご指導、ご協力をお願い致します。

体育館耐震補強工事

四年担任　森脇尚志

一日一日の経過が、即自分の進路に密接に繋がっているのだ、という自覚の元に四年生は日々を送っています。四年のこの時期は、昨年までの同時期とは全く違った時期であるという捉え方をしてくれている、と思います。そういう意味で「二度と来ない今日」という一日を、今彼らは送っているのです。

　常に「来年の今頃は」という現実的な観点に立ち、これまでの自分を見直しそして変わる。変わるきっかけを今こそ探すことが大切なのです。それが出来なければ、昨日と一緒の今日を送らなければなりません。当然そこには何の進歩もなく、向上も望めません。

　厳しい言い方ばかりになりますが、今この思い無くして展望は開けません。長い人生には幾度か、ド真剣になって自分の方向性について考えなければならない場面があります。そこで自分自身と真正面から向き合ってこそ、将来いい意味でのターニングポイントとして振り返ることが出来るのです。正に今がその時なのです。

　これまで通してきた「自己都合」だけでは大人としてのコミュニケーションは図れません。「浮島」という温床にあって尚「自己都合」を通してきた自身を省み生かされていたんだな、という報恩の思いに気付いてこそ初めて、大人への入り口に立ったというべきでしょう。

　しかし、私が受け持った一年前に較べると、彼らの人間的成長には素晴らしいものがあります。一つ一つについての詳報は叶いませんが、一言一句、一挙手一投足に至るまで、四年生としての落ち着きがみられるようになりました。恐らく

ご家庭でもお感じになっておられるのではないでしょうか。

とは言え、彼らは今、重大な時期にさしかかっています。どうかよき相談相手としてバックアップしてやって下さるよう、担任からもお願いいたします。今が最高のターニングポイントとして将来振り返ることが出来ますよう、彼らのために共に協力し頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

★教務部より

「いっしょに学びませんか。君のやる気応援します。」

三月に二十二名の卒業生が巣立った後、四月に十六名の新入学生を迎えて浮島キャンパスの新年度が始まりました。四年前までの数年間は新入学生が三十名を超え、やり直しの生徒とともに四十名を超える年もあり、一年の教室は騒然とした新年度の始まりでしたが、三年前からは二十名前後で推移し、ゆったりとした空間で落ち着いた雰囲気の中高校生活のスタートが切れていると思います。

今年の入学試験から面接試験が導入され、一次入試ではこれまでどおりの五教科の学科試験の後に、二次入試では学科試験が５教科から三教科に変更された上で、個人面接が実施されました。浮島分校を志望する理由、高校生活への決意、さらには将来の希望等の質問に、気持ちを込めて答を返してくれていました。面接試験を受けるための準備を重ねたことと思いますが、その行為は、義務教育を終えその後の進路選択を一所懸命に自問自答することになったと思います。ならば、職員として、掲げた応援メッセージを改めて肝に銘じなければの思いです。

面接試験を受けることはなかった二年生、三年生、四年生も、浮島を志望するに至る経過の中でその後の進路への思いを自問自答していたはずです。入学直後は、学校が続けられるだろうか、友人ができるだろうか、不安と期待を抱えながら緊張の中で高校生活が一日一日が過ぎたことでしょう。そのうち、緊張から解かれ気がつくと、「慣れ」の中で決意と希望が薄まっていく様子が繰り返されてきた現実があり、一年生の教室にもその兆しがあります。

「卒業する」気持ちは持ちながらも、学業には自分なりに折り合いをつけた日々が流れ、中には学校から足が遠のいてしまうことも少なからずあります。一方で、四年間変わらぬ姿勢で学業に励む姿もあります。また、卒業後を見据え学業に勤しむ姿もあります。

働きながら夜間定時制で学び、四年間もしくは四年を超えてでも卒業することは、大変なことではありますが、多くの卒業生が辿った道でもあり、浮島キャンパスに集う生徒が後に続いてくれることを願い、そのための支援に努めたいと考えております。

（教務部　羽柴　保）

★生徒指導部より

新学期そうそう新型インフルエンザが関西圏を中心に広まりましたが、北部についいては影響もなく、ひと安心という所です。学校生活においても、喫煙での指導が少しありましたが、比較的落ち着いた雰囲気の中で一学期が終われました。

この夏休み生活リズムを崩さないように、また、自分を見つめ直す機会としても有意義な夏休みとしてください。

（生徒指導部　高橋光重）

＝　今後の主な行事予定等　＝

7月21日（火）～24日（金）	進路面談
8月14日・15日・16日	陸上全国大会
8月25日～27日	模擬面接
9月　1日（火）	始業式

【お知らせ】

本年度四月下旬より、体育館の耐震補強工事が始まりました。完成予定は十一月中旬です。生徒達には体育等の授業で迷惑をかけています。申し訳ございません。ご了承ください。

＝　編集後記　＝

五月には新型インフルエンザが流行し、一時は心配しましたが、影響もなくホッとしています。子ども達が健やかに成長してくれることを願っています。

（広報部　藤田厚司）